

がんセンター 便り

宮城県立がんセンター地域医療連携室



「がんセンターの目指すもの」

院長 **山田 秀和** (やまだ ひでかず)



当院の関連施設の皆様には患者さんの紹介等で大変世話になっています。当センターは、がんの専門病院としての存在意義を高めるために、常日頃から様々な取り組みを行っています。今回はこの紙面をお借りして当院が現在重点的に取り組んでいること、近い将来目指していることを病院のPRを兼ねてご紹介させていただきます。

1.低侵襲手術への移行

既に本年度に手術支援ロボット(ダヴィンチ)を購入し、9月からの運用を予定しています。当初は泌尿器科の前立腺手術から開始し、徐々に各科に広がっていくつもりです。また腹腔鏡手術も増えており、これらを管理する低侵襲手術センターを立ち上げる予定です。

2.ゲノム医療センターの立ち上げ

このがんセンター便りの増刊号「がんゲノム医療センター特集」を皆様のもとにお届けしますが、9月2日よりがんゲノムセンターを立ち上げる予定です。すでに標準治療を終了した固形癌の患者さんが対象となり、遺伝子パネル検査を行い治療薬を選択するものです。東北大の連携病院としてスタートしますが、いずれ自前で治療法を決定する専門家会議が開ける拠点病院になることを目指しています。詳細は増刊号をご覧ください。

3.精神腫瘍科、皮膚科の新設

高齢化社会が進み、がん治療にも合併症の管理が必須の状況となっています。当院では従来から治療がスムーズに行えるように循環器科や糖尿病科、眼科の診療を行ってきました。さらに今年1月から皮膚科の診療を開始し、また4月からは精神科医師が赴任し東北では初となる精神腫瘍科を開設しました。今後もぜひがん治療を多面的に支える診療体制を構築していきたいと考えています。

4.地域医療連携室の整備・拡充

これまで地域連携室の人員は5人で実務を行っていましたが、当院の規模を考えると明らかに不足であり、来年はこの部門の充実を図りたいと考えています。関連施設の皆様も当院の地域連携に対してご意見があれば、ぜひご一報いただきたいと思います。

以上簡単ですが「当院が目指すもの」を書いてみました。もちろんこれは現在あるいは近い将来のことであり、もっと長いスパンでの取り組みも考えています。ぜひ10月2日の地域連携の会にもご参加いただき、ご意見を頂ければと考えています。

「第5回宮城県立がんセンター地域医療連携の会」のお知らせ

医療局長兼地域医療連携室長 **鈴木 眞一** (すぎき しんいち)

今年も「宮城県立がんセンター地域医療連携の会」を開催致します。今年は「先端医療」をテーマに、当院での3つの取り組みについて、連携医療機関の皆様に御紹介させていただきたいと思っております。懇親会も合わせ、多くの連携医療機関様からの御参加を心よりお待ちしております。

■日時：令和元年10月2日(水)
19:00~
■場所：江陽グランドホテル

- 内容
- 講演会
「がんゲノム医療について ~当院の体制と今後の展望~」
がんゲノム医療センター長 安田 純
「低侵襲手術の体制整備について」
泌尿器科 科長 川村 貞文
「食道がんに対する光線力学療法(PDT)について」
消化器内科 医療部長 及川 智之
 - 懇親会

外来新患診療体制表 2019年8月現在

(宮城県立がんセンター)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
血液内科		●	●		●	●
腫瘍内科		●		●		●
呼吸器内科		●	●	●	●	●
消化器内科		●	●	●	●	●
頭頸部内科			●	●		
緩和ケア内科			●	●		●
呼吸器外科			●	●		●
消化器外科			●	●		●
乳腺外科	●				●	
整形外科			●		●	
形成外科			●			●
脳神経外科	●			●		●
泌尿器科	●			●	●	
婦人科	●		●		●	
頭頸部外科	●		●		●	
放射線治療科	●		●	●	●	

診療受付時間：午前8時30分～11時00分 TEL 022-384-3151 (代) FAX 022-381-1169 (地域医療連携室)

交通案内

J 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用
R 桜交 名取駅西口から「県立がんセンター線」(なとりん号)を利用
仙南交 名取駅西口から「北目上原線」(なとりん号)を利用
自家用車 仙台南インターからは、国道286号バイパス経由
名取市役所 岩沼線を利用 (所要時間約15分)

地域医療連携室のご案内

地域医療機関の先生方からご紹介を受けた患者さんの診療予約をお取りしてスムーズな受診ができるようにしております。

○受付 午前8時30分～午後5時15分
○TEL (022) 381-5152(直通)
(022) 384-3151(代) 内線123
○FAX (022) 381-1169(地域医療連携室)

宮城県立がんセンター
〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47の1
電話(代表) (022) 384-3151 FAX(企画総務課) (022) 381-1168

□ゴマークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表わしています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。



精神腫瘍科の紹介

精神腫瘍科診療科長 のむら りょう 野村 綾

精神腫瘍科は今年4月から当センターに新たに開設された診療科です。「精神腫瘍科(あるいは精神腫瘍学)」とは聞きなれない言葉かもしれませんが、がんに罹った方の心に関する問題を専門に扱う分野です。診断前の検査から始まり告知、手術や化学/放射線療法、再発への懸念、仕事との両立、家族への影響…など、がんはあらゆるステージ、さまざまな生活場面において大きな心理的負担が生じうる疾患です。臨床経過を問わず、適応障害(この場合は抑うつ症状が軽度～中等度の状態を指します)とうつ病(同じく抑うつ症状が中等度以上の場合を指します)を合算した有病率は約10～30%にのぼる、との報告もあります。日本では2000年代頃から各地のがんセンターなどを中心に徐々に精神腫瘍科を持つ医療機関が増え始めましたが、まだまだ多くの周知を得られていない状況です。東北地方では当センターが初めての「精神腫瘍科」の標榜となります。精神科医1名と公認心理師1名が、院内の「緩和ケアチーム」と協働してがん患者さんが抱える心の悩みに応じ、患者さん自身や、時にはご家族の支援にもあたっています。将来的には他の医療機関からのご紹介やご家族のみのサポートなども行いたいと考えておりますが、現在は院内紹介(当センター通院・入院の方のみ)限定とさせていただきます。

4月からの開設以降、存在が周知されるに従い紹介件数も徐々に増えてきております。主な紹介目的としては、適応障害・うつ病、不安障害、せん妄、不眠への介入依頼が多く、また、精神疾患を持つがん患者さんが入院する場合の術前評価や入院中のサポートなども担当しております。

2人だけの小所帯ですが、がん患者さんの心のよろず相談に乗れる場を目指してゆきたいと思っております。皆様からご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



野村 綾
(精神腫瘍科医師)

多田万恵
(公認心理師)

診療材料管理室の紹介

診療材料管理室 副室長 さぬき くみこ 讃岐 久美子

H24年4月より物流管理専従看護師となり今年で8年目になります。診療材料管理室は、医師(室長)1名・専従看護師(副室長)1名・事務職(企画総務課)1名を中心に、倉庫管理や滅菌業務の委託業者と協力して院内で使用されているすべての診療材料を管理しています。材料の発注・納品・検品・搬送だけにとどまらず、メーカーやディーラーとの価格交渉、各部門や委員会と連携した勉強会・研修会の企画、採用されている診療材料の見直しや統一化、診療材料に関する情報発信、不具合やクレームの対応、依頼された診療材料の調査、採用された材料の物流システムへの登録(マスター登録)など、院内の様々な部門と組織横断的に係りながら多岐にわたった活動を行っており、医師や各部門からの診療材料探しや問い合わせは年々増加傾向にあります。

滅菌業務は、毎日の洗浄・滅菌はもちろんのこと、器具の動作点検にも注意しながら日々の業務を行っており、鏡視下手術数の増加などもあって業務量は年々増加しています。

H26年の完全電子カルテ化に伴う物流システムの導入によって、診療材料に関する様々なデータも出せるようになったため、院内各部署等へのデータ提供(還元)だけではなく、関連する学会などで院外への情報発信も出来るようになりました。H29年からは物流システムのマスターを利用し、診療材料のMRI検査の可否を検索するシステムの構築に取り組んでおります。

毎月1回開催される診療材料管理委員会は委員長1名(室長)、副委員長1名(副室長)、医師、看護部、薬剤部、検査部、医事課、企画総務課、委託滅菌業者・委託SPDなど計19名で構成されており、月毎の購入金額や払い出し金額、医業収益に対する診療材料比率、在庫金額、6ヵ月以内に期限切れを迎える材料の確認、新規採用申請品の審査など、診療材料が無駄なく適切に使用されるために必要な様々な話し合いを行っています。

今後も診療材料の適正使用を呼びかけながら、診療材料管理室として安全な医療の提供ができるように役立って行けるよう努力をしていきたいと思っております。



米澤百合乃
(企画総務課主事)

後藤孝浩
(診療材料管理室長)

讃岐久美子
(物流管理専従看護師)